

資料提供	
令和5年9月1日	
担当課 (担当者)	鳥取県感染症対策センター (宍岐、加賀田)
電話	0857-26-7153、7770

## 新型コロナウイルス感染症患者数（令和5年第34週：詳報）

このことについて、県内の定点医療機関から報告された患者数は次のとおりです。

<集計期間:令和5年第34週(令和5年8月21日(月)~8月27日(日))>

### 【地区別】

地区	東部	中部	西部	合計	全国(第34週)
定点数	12	6	11	29	—
患者数	219人	150人	249人	618人	—
定点当たり患者数	18.25人	25.00人	22.64人	21.31人	19.07人
前週比(倍)	1.00倍	1.01倍	0.86倍	0.94倍	—
流行情報	●警戒	●警戒	●警戒		

### <参考>

- ・定点当たり患者数とは、1週間に新型コロナウイルス感染症と診断された1定点医療機関あたりの患者数。
- ・定点医療機関の内訳は、小児科定点:19医療機関及び内科定点:10医療機関

### <流行情報の解説>

現在の感染状況が、第8波と比較してどの程度のレベルかを地区ごとにお知らせするもの。

●注意レベル: 定点当たり10人/週（今後の感染拡大に注意が必要と考えられる段階）

●警戒レベル: 定点当たり20人/週（感染者数の加速度的な増大のおそれがある段階）

※いずれも、定点当たり10人/週を下回れば解除。

### 【年齢別の患者数】

(人)

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	計
今週	132	78	60	64	62	58	43	59	62	618
	21.4%	12.6%	9.7%	10.4%	10.0%	9.4%	7.0%	9.5%	10.0%	100.0%
前週	105	68	83	69	74	70	56	75	56	656
	16.0%	10.4%	12.7%	10.5%	11.3%	10.7%	8.5%	11.4%	8.5%	100.0%

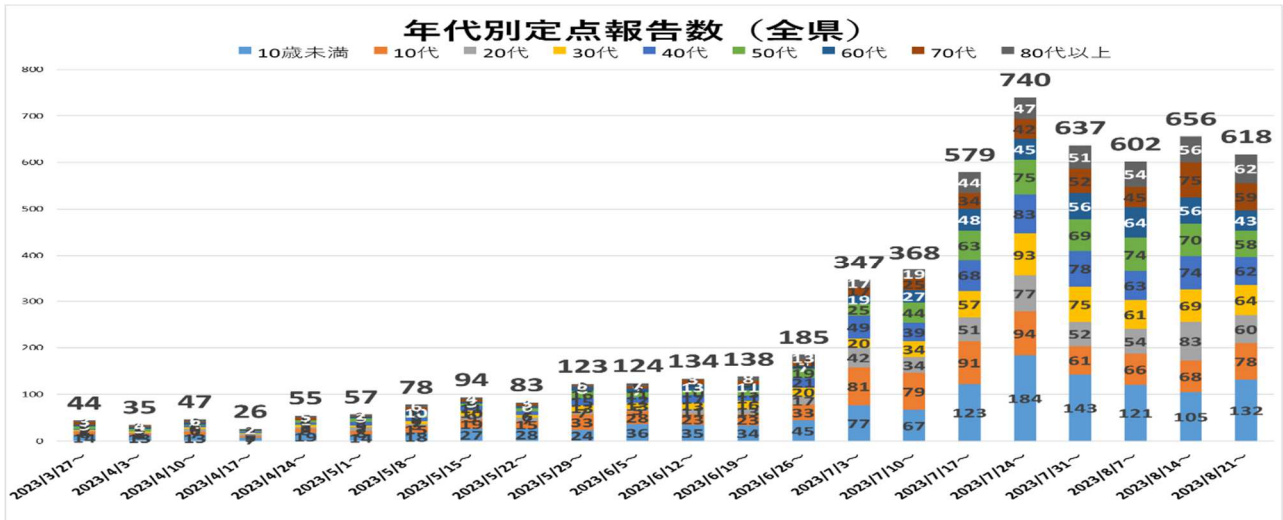
### <感染動向等に係る県感染症対策センターコメント>

- 患者数は前週と比べ、東部・中部地区でほぼ同数、西部地区で減少となったものの、中部・西部地区は引き続き定点当たり20人を超えており、県全体として直近4週間を通じてほぼ横ばいの状況。年代別では、前週に比べ、10代以下の患者が増加。
- 流行情報「警戒レベル」は全県で継続しており、夏休み後の学校再開に伴う影響を含め、引き続き感染動向に注意が必要。
- 医療負担の目安である『新型コロナ警報』の“注意報”を8月1日から全県に発令中であり、重症化リスクの高い患者の増加による医療負担に引き続き注意が必要。

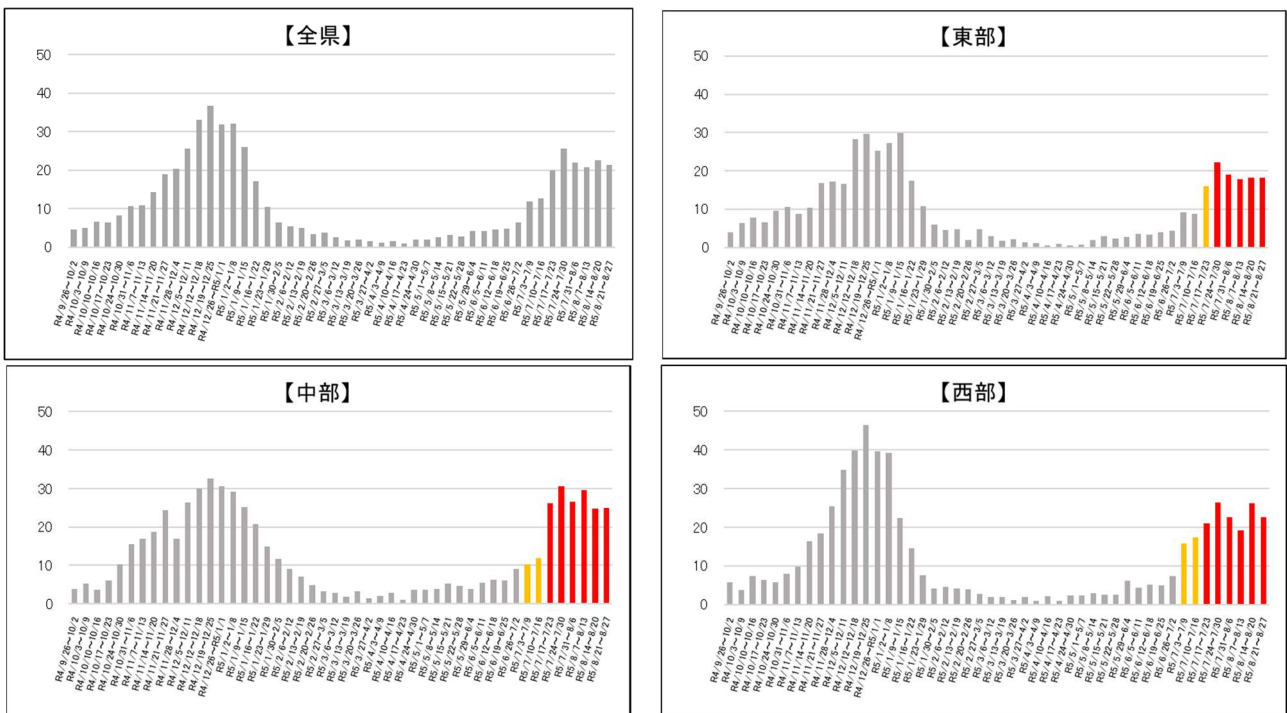
(県民の皆様へ)

- 引き続き、手指消毒、換気の徹底、場面に応じたマスク着用といった感染防止を心がけ、特に高齢者と接する場合は、体調を整えるようにしましょう。重症化リスクの高い方は、近接した会話や混雑した場所を避けることが有効です。
- 気温が異常に高い状況が続いており、体力が落ちていることがあります。食事や睡眠をしっかりととり、日頃から体調管理を徹底しましょう。
- 予期せぬ体調悪化に備え、抗原検査キットや解熱剤・咳止め等の常備薬を準備しておきましょう。発熱や咽頭痛があるなど体調が悪い場合や陽性が判明した場合は、無理せず自宅で安静に過ごし、周囲にうつさない配慮をお願いします。ご家庭内では、特に高齢者にうつさないよう気をつけましょう。
- 発熱や風邪症状など感染の不安があり受診される場合は、医療機関へ事前に電話連絡の上、指示に従って受診しましょう。重症化リスクの高い方や他の重篤な疾患の診察に影響が及ばないよう、救急外来を含め医療機関の適正受診をお願いします。
- 医療機関や高齢者施設で入院・入所中の方と面会される際は、施設のルールに従って対応しましょう。

【図1】年代別定点報告数



【図2】定点当たり患者数の推移



注) 令和5年第18週(5/1~5/7)までは全数報告分のうち定点医療機関からの報告件数

【図3】感染拡大レベル

